***2014/11/15　議事録***

◆前日の案についてのコメント

・メノン違う。

・村井実モデル使うの難しそう。

◆論の流れ案　その１

問題 キャリア教育の実践が高校普通科で遅れている（小・中・高校の専門学科に比べて）

↓Why？

どのように行うのかが不明確だから

↓

実践を見て、どのように行うべきか考えるべき！

先行研究 実践について様々な問題が指摘されている

→実践例を村井実のEmモデルで分析

↓

主張 キャリア教育はEm3型で行うのが良いのでは？

コメント

・実践見るのが難しい

（特に、村井実のモデルが教師・生徒の具体的な働きかけの部分まで見えなければ判断できないため無理があるのでは？）

・村井実のモデルに関しての認識がみんな若干違くない？

◇何をもってキャリア教育の理想と非理想を見分けるか？

Em2（ダメ）　自由、自学、放任、自発（←いわゆる夢追い型と非難されているもの）

Em3（良い）　子供がよい像を作ることを期待

　　　　　　　親・教師：過程像（できあがりつつある人のイメージ）をもってするはたらき

　　　　　　　外から手がかり→良い人を実現

　　　　　　　＝援助が必要

◆論の流れ案　その２

問題 キャリア教育の実践が高校普通科で遅れている（小・中・高校専門学科に比べて）

↓Why？

どのように行うかが不明確だからではないか？

↓

不明確であるがゆえに起こっている問題とは？

→・教師がキャリア教育を行うこと直面している問題

　・教師の理解不足で起こっている問題

↓

実践校として紹介されている高校の事例から、キャリア教育の行い方について考える！

→実践例を見る

コメント

・やっぱり、実践例を見るのが難しくないか。

→あんまり研究蓄積がない…???

◆論の流れ案　その３

日本の雇用環境の変化（一回就職したら終身雇用⇒非正規の増加＆企業内教育×）

↓

キャリア教育の必要性

←アメリカはもともと色々な企業を転々として自らの専門スキルを上げていくという雇用形態

→キャリア教育が注目されている

↓

アメリカと日本の雇用形態が似てきたのに、アメリカと日本のキャリア教育は違う？

（アメリカは学力重視、スクールカウンセラー導入、地域密着）

↓

主張 日本のキャリア教育も見直すべき!!

◆◆◆宿題◆◆◆

笠原・寺澤・平村：

・論の流れ（その３）で行けるかを各自考えてくる

・アメリカのキャリア教育に関する先行研究に目を通してくる

・ジョブシャドウイングについて見てくる

***2014/11/18　議事録***

◆前回の案についてのコメント

これでいけるような、いけないような…。

とりあえずこの路線で攻めましょう！

◆論の流れ　その１

日本の雇用環境の変化

↓

キャリア教育の必要性

↓

日米で似てきた（という指摘がある）雇用環境

BUT キャリア教育は違う

米：マーランド「…すべての教育的経験を、経済的自立への準備…べき」

日：スキルや知識の育成に関わる職業能力開発という…位置づけがよわい

↓

アメリカのキャリア教育はうまくいっている（っていうのがないとだよね？）

↓

日本のキャリア教育も見直すべきなのではないか？

↓

日本のキャリア教育の問題：

学力・スクールカウンセラーという視点の不足、インターンシップへの偏重

↓

主張 インターンシップではダメで、ジョブシャドウにすべき

（なるべく日本の企業の特質にそぐわせて論を進めたい…）

◇インターンシップ批判の理由

日本企業は小部屋ではなく、職の配分が不明確

インターンシップは企業が企画したものであり、先生が企業になっただけにならざるを得ない

→作られた体験

→再吟味できるのだろうか？？

コメント

・日本企業の特質にそぐわせるというくだりと最初の入り方に齟齬があるのでは？

・アメリカのキャリア教育がうまくいっているって言えなくない？

（特に、失業率的な数値って日本のほうがアメリカより低そう…）

・ただのジョブシャドウの紹介みたいになりそう…。

◆論の流れ案　その２

問題 日本の若者が受身的である

例）高校への要求に関するアンケート、離職率など

＋

キャリア教育の中身も総じて受身的

例）インターン（企業側が企画）、進路講演（聞くだけ）、キャリア・カウンセリング

BUT 社会に求められているのは能動性！

例）キャリア教育で育てる力（by文科）の文言における能動性を表すもの

・他者と協力して、社会に参画

・今後の社会を積極的に形成

・主体的に行動

・進んで学ぶ姿勢

・自ら主体的に判断

↓

主張 現在のキャリア教育に能動的な活動を取り入れるべき！（その一例としてのジョブシャドウ）

コメント

・受身と能動の定義必要

・ものによって、受身と言い切れなかったり、能動と言い切れなかったりするものがあるのでは？

・インターンは受身か否か…

・学生が外交的であるというデータも

・手段‐目的モデル、buildungとかを使えばできなくはないかもしれない…、代案候補。

◆最終的な論

・キャリア教育の必要性（from文科の手引き）

→・学校から社会への移行をめぐる問題

①社会環境の変化（新卒の求人数、求職と求人のバランス、システム）

[②若者の資質をめぐる課題（職業観の未熟、基礎的資質↓）]

↓

・具体的にどのような変化？　新自由主義

↓

・先行研究１ 新自由主義を掲げるアメリカのキャリア教育（from寺田盛紀、『キャリア教育と就業支援』）

→日米のキャリア教育が異なる

↓

・先行研究２ 日本のキャリア教育の[アメリカとの比較における]問題

↓

・日本のキャリア教育はインターンシップに重きが置かれている

↓

・仮説 インターンシップよりもジョブシャドウのほうが適切である

→インターンシップの目的は興味の再吟味（from岐阜大）

BUT 企業本来の姿ではなく、企業に企画された・作られたものの体験

例）専門的な体験は不可

＋企業の負担が重い

→ジョブシャドウはそれらを克服する利点がある！！

⇒よって、適切である

明日にしましょう！解散！！

***2014/11/19　議事録***

◆前日の論に対するコメント

・アメリカの件とインターンシップの件がかみ合ってなくない？

・大学見る感じになるよね？

◆スライド案

●表紙

↓

●班の問題意識、文科省の問題意識、キャリア教育登場までの経緯、キャリア教育の定義

↓

●キャリア教育がしていること

（何を行っているのかのアンケート（大学）→インターンシップは社会で学べる機会！！→インターンシップの現状、学生の不満の声）

↓

●仮説 「インターンシップは日本の現状に適合していない」

↓

●検証

（労働省の指摘、日本がジェネラリスト志向であることの指摘、インターンは周辺的な仕事にならざるを得ない、学生の不満の声）

↓

●オルタナティブ ジョブシャドウの紹介、ジョブシャドウのメリット

◆◆◆宿題◆◆◆

寺澤・平村から、それぞれ上野・笠原へ内容を共有

→水曜までに大体のpptスライドを作成してくる！